

水泳部活動における安全について

水泳専門部 深谷商業高校 福島秀基

1 深谷商業高校水泳部の状況について

本校水泳部は50数年前に設立され、かつては学総体で総合2位に入ったこともあります。プールは53年前に建設された、25m7コースで何度も改修しています。

現在部員は男子3年生2人、2年生3人、1年生1人の合計6人。女子3年生3人、2年生1人、1年生4人の合計8人とマネージャー5人で、全部で19人です。選手のうち2年生の男子2人と女子1人は普段スイミングクラブの選手コースで活動しており、スイミングクラブが休みの時や夏休みなどは学校で練習することもあります。

学校で練習している選手の多くは、小学校時代に少しだけスイミングクラブの一般コースにいたことがある程度で全くの素人もいます。

学校のプールでは4月中旬から10月中旬まで約半年間泳ぎます。オフシーズンは学校では筋トレ、ランニングをやり、可能ならば時々温水プールへ行きます。活動日は基本的に平日です。シーズン中の練習量は1日約4000m台です。

私自身は、高校時代に選手歴3年、大学時代にスイミングクラブのアルバイトで指導歴4年、水泳部の顧問歴は17年です。

2 学校管理下における水泳事故の状況について

独立行政法人日本スポーツ振興センター発行、「学校における水泳事故防止必携（新訂二版）」より

- ①（図1）死亡事故の75%が溺水・溺死で、監視体制がしっかりしていれば助かる可能性がある。
- ②（図2、3）水泳部の活動での事故は死亡事故、障害事故とも比較的少ないと言える。
- ③（図4）水泳での障害事故は極端に重いか、極端に軽いかのどちらかである。
- ④（図5、6）水泳での事故は、飛び込み・スタートで起きやすい。特に重大事故は飛び込み・スタート時に集中している。
- ⑤経験的に水泳は、練習のやりすぎでの故障が比較的少ない競技である。あるとすれば肩、腰の故障が多い。

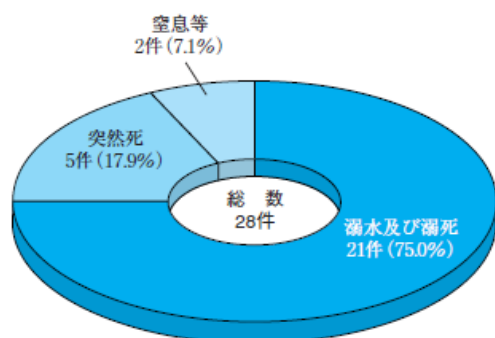


図-1 学校の管理下の水泳中の死亡事故の原因
(平成13年度～17年度)

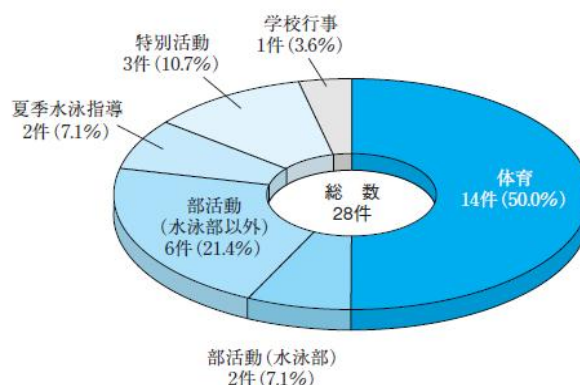


図-2 学校の管理下の水泳中の死亡事故発生の場合
(平成13年度～17年度)

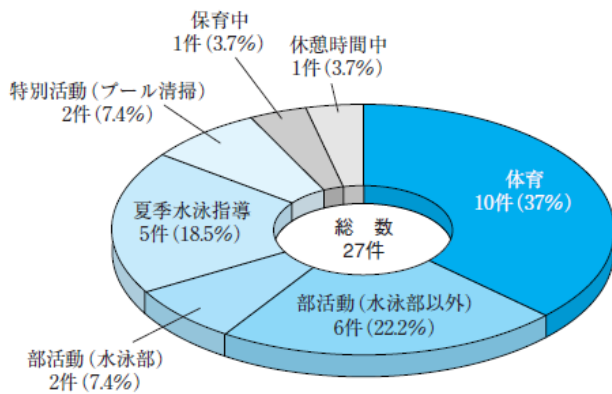


図-3 学校の管理下の水泳中の障害事故発生の場合
(平成13年度～17年度)

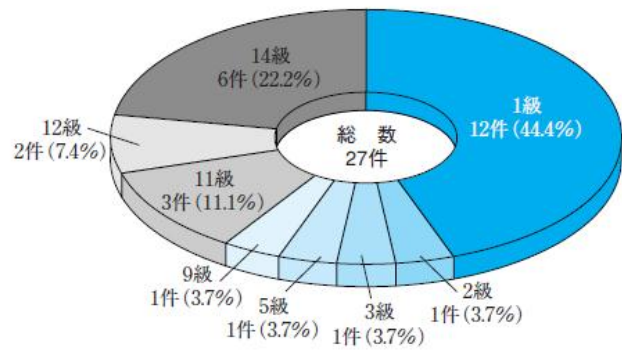


図-4 学校の管理下の水泳中の障害事故の障害等級別
(平成13年度～17年度)

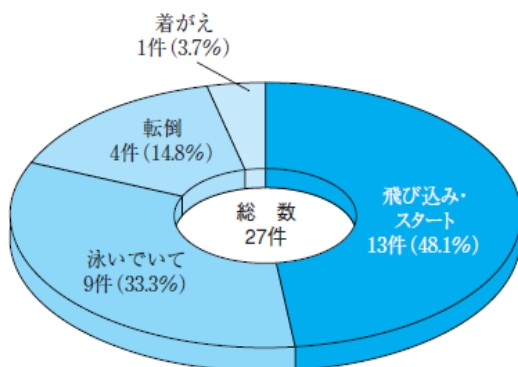


図-5 学校の管理下の水泳中の障害事故の形態
(平成13年度～17年度)

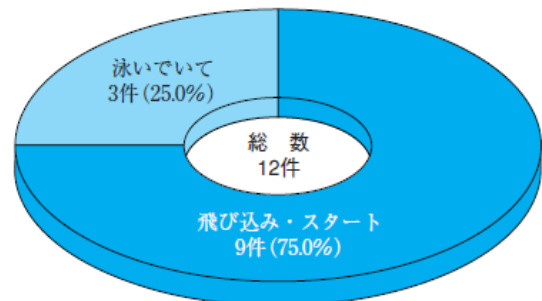


図-6 学校の管理下の水泳中の第1級障害の形態
(平成13年度～17年度)

3 深商水泳部での事故防止の取り組み

- ① 飛び込み練習をはじめ全ての飛び込みは、顧問がいるときで顧問の許可があったときのみ行う。また、飛び込み練習中は集中し、ふざけたりしない事を徹底している。初心者よりも、上級者の方が飛び込み事故を起こしやすい為、少しでも危険な要素があれば必ず声をかける。(3年前のプール改修の際、飛び込み台を20cmほど低くした。)
- ② 体調不良者は軽い症状でも無理して泳がせない。
- ③ 練習中は常に隣のコースを気にするように意識させる。マネージャーにも小さな異変に注するように意識させる。
- ④ 顧問が会議等で不在の時は、居場所を伝えるようにし、万が一事故が起こったらとにかく近くの教員や大人に連絡すること。また、生徒にはAEDの場所の確認をさせている。
- ⑤ プールサイド等では常にサンダルを履くように指導。(プールが古いため周囲にガラスの破片等が落ちている。トイレが管理棟に無く離れたところにある。)
- ⑥ プール管理は部員にも手伝わせて、顧問が不在の時も出来るようにしている。
- ⑦ 最近では、夏休み中の土日は活動している部活が少ないため学校に職員がほとんど居ないので、重大事故への対応が心配されるので活動を控えている。